

令和六年度

# 入学者選抜学力試験問題

## 国語

受験番号

注意 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。

句読点や記号は、一文字として数えなさい。

問題作成の都合上、本文を一部改変しました。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

文書 1

私たちの周りにあふれていることば以外の膨大な情報——。それを研究しているのが、心理学の「ノンバーバル・コミュニケーション」と呼ばれる領域である。最近では、言葉よりも、言葉以外の要素の方がより多くの情報を伝達していることが分かってきた。アメリカの心理学者アルバート・マレービアン博士は人が他人から受け取る情報（感情や態度など）の割合について次のような実験結果を発表している。

○ 顔の表情 五五%

○ 声の質（高低）、大きさ、テンポ 三八%

○ 話す言葉の内容 七%

話す言葉の内容は七%に過ぎない。残りの九三%は、顔の表情や声の質だというのである。実際には、身だしなみや仕草も大きく影響するだろう。

ついついコミュニケーションの「主役」は言葉だと思われがちだが、それは大間違いである。演劇やマンガを主戦場としている私は、人は能力や性格もひっくり返して「見た目が九割」といっても差し支えないのではないかと考えている。

にもかかわらず、学校教育では「言葉」だけが、「伝達」の手段として教えられる。だから七%を「全体」と勘違いしている人が生まれる。たとえば、「本をたくさん読む人」が「たくさん勉強している人」という錯覚が生まれる。「本をたくさん読む人」が必ずしも「情報をたくさん摂取している人」ではないのである。

私たちは「本をたくさん読む人」の中に、人望もなく、仕事もできず、社会の仕組みが全く理解できていないと思える人がたくさんいることを知っている。

七%の情報の中で生きている、あるいは、自分が重視していない九三%と、自分が愛する七%との関連付けが行われなまま、「世渡り」をしているとおぼしき人である。

そういう人と接すると「言葉が地に着いていない」<sup>3</sup>あるいは「言葉が宙に浮いている」と感じる。表現を変えれば、確かに理屈は正しいのだが、理屈しか正しくない人たち——。私たちは、そういう人の意見を聞くと、こんな反応をしたくなる。

「あなたの言うことの意味は分かるけど、あなたに言われたくない」

言葉主体の「コミュニケーション教育」の申し子たちは、七%を見て九三%を見ない（<sup>4</sup>そういう人も「木を見て森を見ず」<sup>5</sup>という言葉は知っている）。

とはいいつつ、九三%がいかに大切かを説いている私も、分が悪いのを実感せざるを得ない。何しろ、書物は「言葉」で書かなければならないのだから。

教育の陥穽<sup>注1</sup>という観点から、一つ補足する。私たちは、子供の頃小学校の先生に「人を外見で判断してはいけない」と教えられた。それは「人は外見で判断するもの」<sup>□</sup>、そういう教育が必要だったのだ。

逆にいうなら、「人を外見で判断しても、基本的には問題ない。ごくまれに、例外があるのみである」といってもよい。

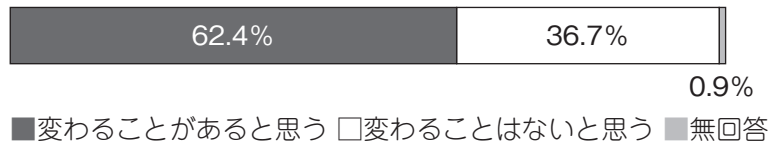
注1 陥穽 人を陥れる策略。わな。

（竹内 一郎『人は見た目が9割』）

## 文書 2

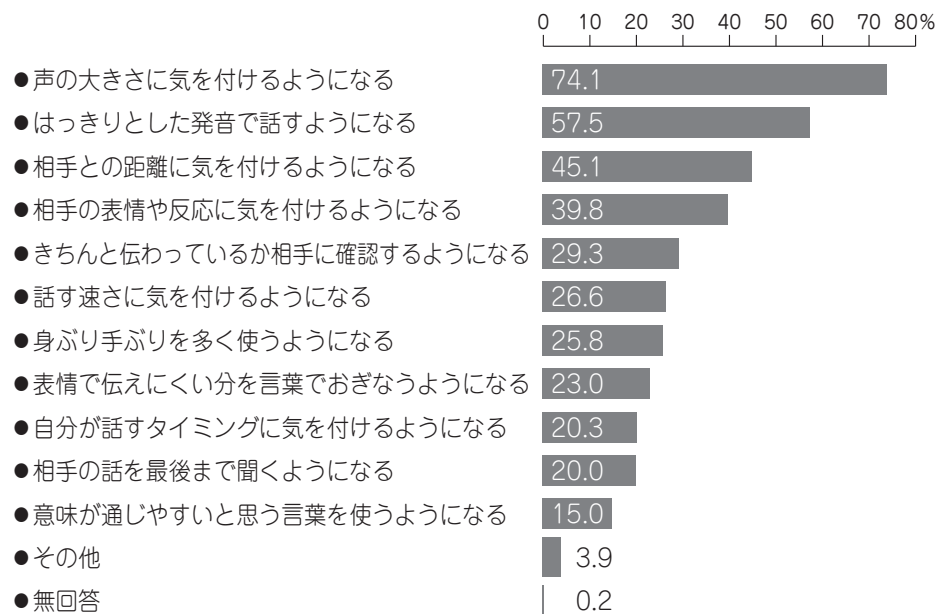
### 資料 グラフ1

▶マスクを着けると話し方や態度などが変わることがあると思うか



### 資料 グラフ2

▶マスクを着けると変わることがあると思う点



文化庁「令和2年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」（2021年）

生活の変化とコミュニケーションに関する意識

【新型コロナウイルス感染症に関連して】

自分も相手もマスクを着けている状態で会話をするとき、マスクを着けていないときと比べて話し方や態度などが変わることがあると思いますか。それともないと思いますか。

結果は資料 グラフ1のとおり。

「変わると思う」は62.4%となっている一方、「変わることはないと思う」は36.7%となっている。

（「変わると思う」と答えた人（全体の62.4%）に対して）どのような点で変わることがあると思いますか。（幾つでも回答）

結果は資料 グラフ2のとおり。

「声の大きさに気を付けるようになる」が74.1%と最も高く、次いで「はっきりとした発音で話すようになる」（57.5%）、「相手との距離に気を付けるようになる」（45.1%）、「相手の表情や反応に気を付けるようになる」（39.8%）となっている。

問1 文書1の——線部1「差し支えない」の語句の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 障害がある。
- イ どうすることもできない。
- ウ 問題ない。
- エ 思うようにならない。
- オ 問題が解決しない。

問2 文書1の——線部2「情報をたくさん撰取している人」とは、具体的にはどのようなことができる人と考えられますか。文書1の中の語句を用いて三十文字以内で答えなさい。

問3 文書1の——線部3「言葉が地に着いていない」は、慣用句「足が地についていない」をもとにした表現であると考えられます。慣用句「足が地についていない」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 考え方や行動がうわついて、しっかりしていないこと。
- イ たいへん身軽で、すぐに行動を起こすことができること。
- ウ あちこちさまよい歩き、一か所にとどまらないこと。
- エ 次々といろいろなことに足をつっこんでいくこと。
- オ 悪い仲間や友達との縁を、すっぱりと切ること。

問4 文書1の——線部4「そういう人」に該当しないものはどれですか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 本をたくさん読んではいるが、勉強に必ずしもつながっていない人。
- イ 情報をたくさん持っているが、他人とのつながりがうまく作れない人。
- ウ 本を読んではいるが、仕事が必要しもできるとは限らず、むしろ苦手な人。
- エ 知識をたくさん習得しており、それをきちんと活用することもできている人。
- オ 読書で得た知識しかなく、社会のことが十分わかっているとは言えない人。

問5 文書1の——線部5「木を見て森を見ず」について、どのような意味ですか。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大自然に目を向けないこと。
- イ 最後まで成長する様子を見ないこと。
- ウ たくさんあって何があるのかわからないこと。
- エ 相手が全く見えていないこと。
- オ 一部に目が行き全体を見ていないこと。

問6 文書1の [ ] に入る語句を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア を目指し    イ だから    ウ とはいえ    エ にもかかわらず    オ ではなく

問7 すみれさんは文書1と文書2を比較し、一致するところと異なるところを、次のようなレポートにまとめました。すみれさんのレポートを読み、後の問いに答えなさい。

文書1では「人が他人から受け取る情報」のうち「A」が七%と最低の数値になっている。文書2でもこれに対応する項目はあまり重視されていないという点で、二つの文書には一致が見られた。

一方で、文書1が書かれた当時にはなかった要因による「人が他人から受け取る情報」の変化が、文書2の回答にはつきりとした影響を与えている。その変化とは [ ] ことである。文書1によれば「人が他人から受け取る情報」の第一位は「B」であるが、文書2では別の手段、文書1で言えば「C」に相当する手段で情報の不足を補おうとする動きが見られる。文書2の問いに対して六二・四%の人が「D」と回答していた当時の状況においては、「B」と「C」の差はほぼ埋まっていた、あるいは逆転していた可能性もあるのではないだろうか。

1 [A] [D] に当てはまる語句を、文書1または文書2から抜き出して、答えなさい。

2 [ ] に入る内容を、本文中の語句を用いて、三十五字以内で答えなさい。

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

寛政大学の学生である蔵原走、清瀬灰二（ハイジ）、王子らが、下宿先の大家を監督として駅伝に挑戦する。

「こんな走りを見せられたら、いやになりますよ」

王子はやるせなく笑った。「なんだかむなしい」

その気持ちは、清瀬にもよくわかった。完全なる美と力をまえにして、できることは無に等しい。それを思い知らされるのはつらい。つらいけれど、見つめ、求めずにはいられない。むなしいと言いつつ表すほかにない葛藤が、たしかに心に生じる。

「努力ですべてがなんとかなると思うのは、傲慢だということだな」

王子をなだめ、励ますように清瀬は言った。自分自身に言いかけさせる言葉でもあった。

「陸上はそれほど甘くない。だが、目指すべき場所はひとつじゃないさ」

物理的に同じ道を走っても、たどりつく場所はそれぞれが違う。どこかにある自分のためのゴール地点を、探して走る。考え、迷い、まちがえてはやり直す。

もしも答えが、到達するところが、ひとつだったなら。長距離に、これほどまで魅惑されはしなかっただろう。走の走りを見てむなしいと感じ、それでもまだ走りたいと願うことなど、到底できないだろう。

完璧な走りを体現する走も。それを見て静かな喜びと闘志を瞳に湛える清瀬も。二人のレベルにはとても追いつけずとも、最後まで走り通した王子も。長距離の世界において、だれもが等価で、平等な地平に立っている。

「そうですね」

と、王子はうなずいた。諦めに似た充足感が、王子の胸に生じる。しばし黙って、清瀬と王子は画面のなかの走を見ていた。しんみりした雰囲気を持ち壊すタイミングで、清瀬の携帯に大家からの着信があった。

「ハイジハイジ、どうして連絡してこない？」

大家はあせっているようだ。「もうすぐ五キロ地点だぞ。走になんと指示を出せばいい？」

「なにも。声をかけないでください」

「しかし走は、沿道の声援にもまるで反応を示さないんだ。レースのプレッシャーに呑まれて、ぼんやりしているように見える」

「いいえ、逆ですよ」

清瀬は確信をもって答えた。「走はいま、極度に走りに集中しているんです。それを妨げてはいけません」

修行を積んだ僧が、座禅を組んで悟りをひらくように。単調なリズムで大地を踏んで、シャーマンがトランス状態になるように。走は、「走る」という慣れた行為を通して、次元のちがう境地へ至ろうとしている。

たるみなく張った細い糸を、切れる寸前までなお引き絞ろうとしているのがわかる。緊張と高揚が縁まで漲った器に、あと一滴のなにかを投げようと、走は無心にひた走っている。

邪魔をしてはならない。だれも走に触れてはならない。いまは。

三校を抜いて、十番目に浮上できた。走は頭の隅で考える。でも実質的な順位としては、シード権獲得圏内に食いこめていない。九区の残りは、あと十五キロ弱。十区の二十三キロと合わせても、寛政大に残された距離は四十キロに満たない。そのあいだに、タイム差をひっくり返せるか？

たりない。走はあせりと悔しさに歯嚙みする。もつと距離があれば、もつと走りつづけることを許されれば、絶対に俺が抜いてやるのに。まえを行くチームをすべて抜いて、だれよりも速いタイムを叩きだしてやるのに。

そう思った走は、ふと笑ってしまった<sup>5</sup>。

なんだか俺っていつも、永遠に走りたいと願ってないか？

ちらつく雪。かつてはそのなかを、一人で走った。高校のグラウンドでも、ジョッグをする河原でも、走はいつも一人だった。もちろんチームメイトはいたけれど、陸上について話しあうほど親しくはなれなかった。

走は、スピードとチームの連帯を重視する監督に逆らった。ひたすら自分自身と対話し、自分のペースで黙々と走りこむことを好んだ。それでもなお、卓越したスピードを見せる走を、チームメイトは遠巻きにした。蔵原は変人だから。蔵原は天才だから、と。

そうじゃない、と高校生の走は叫びたかった。俺に特別な才能があるわけじゃない。誰よりも練習しているから、いいタイムが出るだけのこと。俺は走りたいだけなんだ、と。

どうして監督の言うがままに、部内の規律にばかり気をまわし、練習で極限まで疲れたあとに、さらにはたらたらと一時間もジョッグをしなければいけないのか。そんなやりかたには意味がない、と走は感じた。無茶な練習や根性論で、本当に速くなれるのか？とてもそうは思えない。だって、俺よりいいタイムを出すやつが、いつまでたっても現れないじゃないか。

監督や上級生に怒られないように、従順に「部活動」をこなすチームメイトが、走には理解できなかった。走はもつと自分の心身に正直に、走るという行為に没頭していたかった。

高校生のころ、走はさびしかった。走りに対する自分の姿勢や考えが、まちがっているとは思えない。周囲になにを言われようと、自分のやりかたを貫いた。だが走れば走るほど、走は一人になった。スピードは称賛と引き替えに、走からひととまじわる喜びを奪っていくものだった。

延々とつづく橢円のトラック<sup>6</sup>。走はそこに閉じこめられるのがいやだった。だが、逃げだすこともできない。走は高校に、陸上推薦で入学した。授業料は免除されている。走の両親は、息子が持つ陸上の才能に期待をかけている。逃げて、いったいどこへ行けるだろう。

そしてなによりも、走るといふ行為が、走をとらえて離さなかった。どんな称賛も一時のもの。走が走りに打ちこめば打ちこむだけ、孤立は深まる。それはわかっていたが、走りやめることはどうしでもできなかった。

チームメイトのやつかみと、足の引っ張りあい。強制される練習と規律。それらに抗い、でもどこにも行けない。一人きりで、いつまで走りつづければいいのか、ゴールが見えない。閉塞感に息がつまりそうだった。

いまはちがう。胸にかかった寛政大の襷<sup>たすき</sup>に、走はそつと触れた。この一年で走は変わり、そして知った。

走りは、走を一人にするばかりではない。走りによって、だれかにつながることもできる。走るといふ行為は、一人でさびしく取り組むものだからこそ、本当の意味でだれかにつながり、結びつくだけの力を秘めている。



問 1 —— 線部 1 「やるせなく笑った」のはなぜですか。解答欄の「から。」に続くように本文中から六十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。

問 2 —— 線部 2 「葛藤」の意味を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 悩みながら決断すること。
- イ 曖昧にぼやけること。
- ウ 明らかに示すこと。
- エ 迷い苦悩すること。

問 3 —— 線部 3 「だれもが等価で、平等な地平に立っている」といえるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 全く別の道を走る走者であっても、それぞれの方法で努力することで、完璧な走りという共通の答えを体現できるという点で平等であるから。
- イ 走者は、試行錯誤しながら、それぞれが目指す理想の走りを求めることができるという点において平等であるから。
- ウ 静かに闘志を燃やす清瀬も走りでは追いつけない王子も、完璧な走りをする走の走りを見てむなしいと感じる点において同じだから。
- エ 努力ですべてがなんとかなると、陸上を甘く見ていたように、清瀬も王子も傲慢であったという点で同じだから。

問 4 —— 線部 4 「なにも。声をかけないでください」とあるが、清瀬がこのように言ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 声をかけることで、走りに集中している走の邪魔になると考えたから。
- イ プレッシュヤーに吞まれた走を励ますことは、逆に走の集中を乱すと考えたから。
- ウ しんみりとした雰囲気を打ち壊すことで、走の邪魔になると考えたから。
- エ 沿道の声援よりも大きな声を出すことで、走の集中を妨げると考えたから。

問 5 —— 線部 5 「ふと笑ってしまった」とあるが、それはなぜですか。この時の走の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア どんな時も諦めたくないと思っている自分に呆れてしまったから。
- イ 目立ちたいから走っている自分に気づき、あっけにとられたから。
- ウ シード圈に食い込めるといふ自分の傲慢さにあっけにとられたから。
- エ どこまでも走り続けたいと思う自分に気づき、呆れてしまったから。



問6 —— 線部6「楢田のトラック」という表現から読み取れるものとして、当てはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 親からの期待    イ 部員からの嫉妬    ウ 自分との対話    エ 部内の規律

問7 走は駅伝を通して、走ることにについてどのように考えるようになりましたか。解答欄の「と考えるようになった。」に続くように本文中の語句を用いて三十字以内で答えなさい。

三 次の —— 線部の漢字の部分はひらがなに、カタカナの部分は漢字に直して書きなさい。

- ① 批評の矛先が鈍る。
- ② 神事が厳かに行われる。
- ③ 自然の恩恵を受ける。
- ④ 律儀に挨拶をする。
- ⑤ 寝不足は体に障る。
- ⑥ ジャッカン疑問な点がある。
- ⑦ 船のモケイを作るのが好きだ。
- ⑧ ひたむきな努力にケイフクする。
- ⑨ 力士がドヒョウに上がる。
- ⑩ すでにボウキヤクのかなたに去った出来事。

四 あなたが大切にしている言葉は何ですか。その理由とともに百字以上百二十字以内で述べなさい。